

令和6年度シラバス (地理歴史)

学番中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	地理歴史(地理探究)	単位数	2単位	学年(コース)	5学年
使用教科書	帝国書院『新詳地理探究』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	帝国書院『新詳地理資料COMPLETE』 とうほう『ニューコンパスノート地理』 二宮書店『データブック・オブ・ザ・ワールド』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に着け、グローバル(地域的・地球的)な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。</p> <p>②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。</p> <p>③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。</p> <p>②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。</p> <p>③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。</p> <p>④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。</p> <p>⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

3 指導の重点

<p>①身近な地域や自分自身の生活と関連付け、世界の諸地域の地理的事象について、意欲的に追究する。</p> <p>②現代世界の諸課題について、系統地理的・地誌的に考察することができる。</p> <p>③地図や統計などの資料を自ら分析し、現代世界の地理的事象について読み取ることができる。</p> <p>④現代世界の国や地域及びそれらの関係性などについての基本事項を理解している。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題を理解している。また、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにしている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚などを深めている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・提出物、課題などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・提出物、課題などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物、課題などの内容の確認 ・授業への参加状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価方法
4	1章 自然環境 序節 地球環境と人間	1	・地球システムにおける人間圏が、その他の諸圏とどのような関わりを持っているか理解する。 ・陸水と海洋の水循環が人間圏にもたらした恩恵を理解する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
5		12	・地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解する。 ・地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
6				

		<p>2節 気候</p> <p>1 気候の成り立ち</p> <p>2 気候と生態系</p> <p>3 世界の気候区分</p> <p>4 さまざまな気候帯</p> <p>5 気候変動と異常気象</p>	14	<ul style="list-style-type: none"> ・気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解する。 ・気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 	<p>定期考査</p> <p>授業への参加状況</p> <p>課題・提出物</p>
		<p>3節 日本の自然環境</p> <p>1 日本の地形</p> <p>2 日本の気候</p> <p>3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解する。 ・日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 	<p>定期考査</p> <p>授業への参加状況</p> <p>課題・提出物</p>
		<p>4節 地球環境問題</p> <p>1 地球環境問題とは</p> <p>2 さまざまな地球環境問題</p> <p>3 地球環境問題の解決に向けた取り組み</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて理解する。 ・さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 	<p>定期考査</p> <p>授業への参加状況</p> <p>課題・提出物</p>

10	2章 資源と産業	1節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域分布 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業と現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	9	<ul style="list-style-type: none"> ・自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるかについて理解する。 ・自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・農林水産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
		2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	2	<ul style="list-style-type: none"> ・食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて理解する。 ・食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
		3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	6	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解する。 ・世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
11					

1	4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	2	・これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて理解する。 ・これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
	5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	9	・さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在までのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解する。 ・さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在までのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現する ・工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
	6節 第3次産業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業	3	・経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて理解する。 ・経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
2				

3章 交通・通信と観光 貿易	1節 交通・通信 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	3	・社会や経済を大きく変化させた交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて理解する。 ・社会や経済を大きく変化させた交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・交通・通信について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
	2節 観光 1 余暇の拡大と観光産業 2 貿易の自由化と経済連携	2	・日本での訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について理解する。 ・日本での訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・週末課題として、その週に学習した内容を「ニューコンパスノート」や「地形図・白地図ワーク」等で復習。週明けに提出。週によっては課題プリント（授業内容に関わるもの等）の場合があります。
- ・夏休み課題、冬休み課題は別途指示します（「ニューコンパスノート」「地形図・白地図ワーク」等）。

8 担当者からの一言

4年生で学習した「地理総合」で身に付けた学習の成果を活用し、現実を踏まえての主題追究、より深い理解と課題の探究を目指す科目です。重視されているのが、各項目の知識及び技能の習得のみならずそれを活用した思考力、判断力、表現力等の育成です。5・6年と2年間継続して履修します。

したがって、基礎的な知識や歴史的背景や政治的、経済的、生物的、地学的な事象の理解も重要ですが、「なぜそうなるのか?」「どうしてそのようなことが起こるのか?」といった背景を考えながら学習することが必要です。単なる暗記にとどまらず、思考力・判断力・表現力を地理の学習を通じて磨いていくことで国際社会に主体的に生きぬくための人間力を身に付けよう。

(担当：長岡 大)